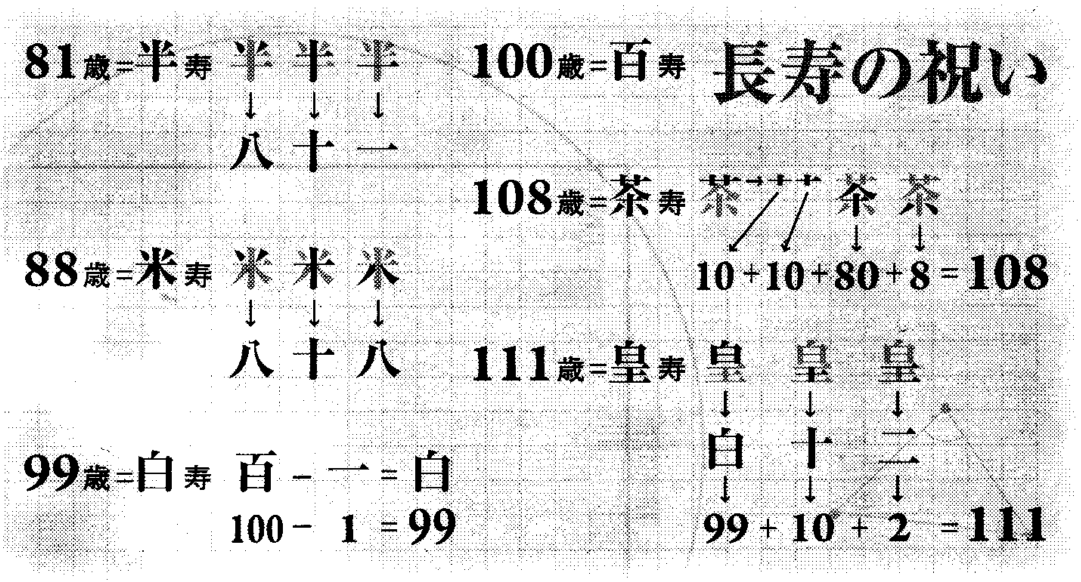
2013年11月17日　日曜日　朝日新聞



桜井進の数と科学のストーリー

漢字で包み込む 長寿の祝い

少し気が早いですが、お正月、親戚が集まった場で「長寿のお祝い」をしようというご家庭はありませんか？　日本では、77歳は「喜寿」、88歳は「米寿」、99歳は「白寿」……と、特別な呼び名があります。これ、実は分解すると数式のようになるんです。

例えば、88歳の米寿。「米」という漢字を分解してみます。最初の筆順の点々を逆さにして「八」、次が真ん中の「十」、そして下の「八」。だから「八十八」。

似ているのが、81歳の「半寿」です。「半」を分解すると「八」「十」までは「米」と同じ。それに「一」を加え「八十一」。81歳は「盤寿」とも言います。将棋盤は、9×9＝81マスなんですね。

では、77歳の「喜寿」は？　これは難しい。でも「喜」という字の草書体をご存じならわかります。「㐂」だから「七十七」。80歳の「傘寿」も「傘」の略字が「仐」で「八十」。90歳の「卒寿」も「卆」で「九十」です。

99歳の「白寿」は100歳の「百寿」と並べて考えます。「百」という字から「一」をとると「白」。つまり、100（百）−1（一）＝99（白）です。111歳は「川寿」とも「皇寿」とも言います。「川」は、そのままで111に見えますね。「皇寿」の「皇」は、99（白）＋10（十）＋2（二）＝111というわけです。

ここまで来れば、宿題にした「茶寿」もわかりますね。ヒントは「米寿」です。茶のくさかんむり以外の部分は「米」と同じ理由で88です。くさかんむりを真ん中で分けると「十」と「十」です。茶＝十(10)＋十(10)＋八十(80)＋八(8)＝108歳が答えです。「茶摘み」の歌は「夏も近づく八十八夜」と歌います。お茶は「88」と関係が深いんですね。

日本には、お金を紙に包んで渡す文化があります。長寿の特別な数も「漢字」にして包み込む。「数と科学」ならぬ「数と漢字」の粋なストーリーを、祝いの席でも話題にしてみてください。

（サイエンスナビゲーター）